

『命をつなぐ～命のサイクルプロジェクト』

釧路キリスト教学園 湖畔幼稚園

園長 青砥 好夫

担当 安田みゆき

中谷 芽衣

1. 活動の趣旨

身の回りにある自然や日々の食べ物一つ一つに命があることを知り、命の大切さ気づいたり命が循環していることへの理解を深める。又、野菜などの栽培活動や食育活動など教育活動全体を通じて園児、教職員共がともに学び豊かな心を育てる。

2. 活動計画

- ①北海道教育大学 釧路校協力のもと、苗植えから製粉に至る「麦づくり」。
- ②野菜の栽培、食育活動。
- ③近隣の店舗（漁業店などの小売店）の見学や酪農家での乳しぼり体験。
- ④くしろせんもん学校の協力のもと、『ピザパーティー』ピザ釜づくり。
- ④協力頂いた二つの養成校の講師、学生を招き、収穫し製粉した麦を使用しピザづくりを行った後、皆で感謝して食べる。

3. 活動事例

①麦づくり

毎年野菜の栽培に使用していた園の畑の一部を麦用の畑として耕し、土づくりから行った。

5月頃に苗植えをしたあと水やりなどの生育管理観察を経て約3か月後、黄金色に育った麦を根本からハサミで収穫。さらに数週間の間、いくつかに束ねて乾燥させた。

麦の製粉作業に至る一連の流れは年長児が主となり体験した。園庭にて、脱穀機で全身の力を使いながら穀粒をから切り離したあと、製粉機を使用し小麦の粒を挽いて粉状にする。伝統的な昔ながらの製粉の道具“石臼”も体験し、最後はふるいにかけてきれいな粉に仕上げる。

②栽培・食育活動

幼稚園、近隣の方、教育大など様々な場所で畑作業を通じて人との会話や協力して作る楽しさを感じながら関係を深めていく中で、じゃがいも、玉ねぎ、ピーマン、パプリカなどピザの具に必要な野菜を育てる。



- ③酪農家、近隣の店舗（漁業店などの小売店）の見学
年長児は酪農家の乳しぼり体験をしたり、酪農家の仕事現場や家畜の様子を目の当たりにして、命の尊さを感じながら見学を行った。年中、年少児は漁業市場や商業店を見学したり、鮭の放流を行うなど各年齢に合わせた見学場所を設定した。ゆかりのある身近な場所で“聞く・見る・触れる”を繰り返したくさんの命が私たちに届いていることを知り学びの機会となった。



- ④ピザ釜づくり

講師による材料調達、設計図作成の協力を得て子どもたちにも分かりやすい設計図のもと一緒にピザ釜づくりを行った。事前に、試し焼きを行い焼ける時間の目安を図り当日に備えた。



- ⑤ピザパーティー

当日は、協力頂いた養成校の皆さんや近隣の方、日頃幼稚園でお世話になっている方々をお招きしピザづくりから共に楽しんだ。収穫の感謝として、来られなかった方々にも野菜を配り日頃の感謝の気持ちを伝え、たくさんの人と交わる経験から、人のあたたかさを感じ、コミュニケーション力を育てる場を持つことができた。

生地は、市販のものに製粉した小麦粉を混ぜてをよく練って伸ばす。その上からトマトソースや、収穫した野菜を自由にトッピングし、2～3分で焼きあがる。命のありがたさ



4. 成果と課題

子どもたちは、栽培・食育活動を通して種そのものにも命がありその成長する力強さ、酪農家などの命の現場にたくさん触れることで、それらを食物としていただく命の尊さや喜びを感じ、命を大切にしようとする力が深まり、普段の食事に対してもより感謝の心をもって味わうことができた。その中で、自分の周りにいる大人（家族、先生など）以外の大人と会話を交わす機会が増え、関係を深めることができた。

家庭ではなかなか体験することのできない取り組みであったことで、保護者などたくさんの方々に関心を強く持っていただくことができた。又、ユネスコスクールとしての活動が広く知られ、大人も子どもも関わり合いながら取り組むことができた。

本活動は、2019年度のものである。新型コロナウイルス感染症防止対策を行い、人との交わりを大切にしながらどのように進めるかが課題である。現在は、リモートで近隣施設との交流や、教師の研修会を行うなどの学びの機会を設けている。